

★2019年4月～6月の予定★

【事務所関係者の動き】

アンマン勤務(JICAヨルダン事務所内)

宮原 千絵 所長(ヨルダン事務所長兼務)
今井 健 次長
柳 竜也 次長
今村 誠 職員(ヨルダン事務所兼務)
成田 英幸 職員
河合 正吉 企画調査員
水野ショー 真希 企画調査員
高島 淳 企画調査員

【公休日】

4月17日 Independence day
4月21日 Easter (Western Calendar)
4月28日 Easter (Eastern Calendar)
5月1日 Labor's Day
5月6日 Martyrs Day
6月4～6日 Eid Al Fitr

「アハバール・カシオン」

～名前の由来について～

「アハバール」とはNewsを意味するアラビア語。「カシオン」とはダマスカスの北に位置する旧約聖書にも記されている山の名前です。

●お知らせ

アハバール・カシオンは[JICAホームページ](#)からのみご覧いただけます。
本ニュースレターは四半期に一度の発行です(原則4・7・10・1月を予定)。

●事務所から

2011年4月28日以降の関係者国外退避に伴い、JICAシリア事務所は現在JICAヨルダン事務所内に日本人所員執務所を設けています。

本号では、小林前所長の離任挨拶および宮原新所長の着任挨拶、シリアおよびレバノンの帰国研修員同窓会の活動報告等を掲載しています。

●人事異動

前所長より離任のご挨拶

人事異動により2019年3月をもってシリア/ヨルダン事務所長の責を退くことになりました。

2016年5月の赴任から2年10ヵ月余り、この間、シリアでは政権側と反政権側の戦闘で多くの犠牲者が出ましたが、2018年3月以降、政権側による東グータや南部諸県の制圧で、戦闘地域は縮小しました。ただし、反政権勢力が集約する北西部イドリブ県の緊張状態、劇的に勢力を弱めながらも未だ散発的な活動を繰り返すISISの存在、更にはイラン勢力の駆逐を狙うイスラエルの爆撃等、決して火種が消えたわけではありません。

こうした環境の中、シリアにおけるJICA事業は、緊急的な人道支援に絞るとの日本政府の方針のもと、情報収集を軸に展開していますが、ヨルダンやレバノンに未だ滞留するシリア難民やそのホストコミュニティに対しては、引き続き技術協力や無償資金協力を駆使した支援を継続してきました。また、日本政府のイニシアティブで2016年度より始まったシリア難民留学生支援「シリア平和への架け橋・人材育



成プログラム」により、将来のシリア復興人材の育成を開始できたことは大きな希望です。

赴任当初、「シリア人の役に立つ支援を」、「将来の復興に役立つ支援を」と決意を示させていただいた自身として、目を瞞る新たな展開を指揮できないまま後任にバトンを渡すことには忸怩たる思いもありますが、今後もシリアの行方には敏感であり続けたいと思っています。在任期間中の関係者各位の叱咤・激励に感謝申し上げますとともに、新体制下のシリア事務所への変わらぬご支援をお願いいたします。

(前シリア事務所長 小林 勤)

●人事異動

「前向きに、ポジティブに」 新所長より着任のご挨拶



3月15日より、前任の小林所長を引き継ぎ、シリア事務所長を拝命した宮原です。よろしく申し上げます。私も、ここ数代のシリア事務所長と同様にヨルダン事務所長との兼務です。シリアの今後を考えていく上で、地域の地政学を注視する必要があるのは言うまでもありませんが、特に関係の深いヨルダンの動きは重要となってきます。その意味で、シリアとヨルダンを所長という立場で一緒に見ることができるのは、ある意味、強味ではないかと思っております。

少し自分のお話をしますと、大学

時代にアラビア語を専攻していたこともあり、かなり長い間の中東ウォッチャーだと思っております（アラビア語の方は口語をエジプトで勉強したため、未だにエジプト訛りがきついですし、そもそも語学力がかなり落ちています）。そんな私が初めてシリアを訪れたのは、1989年の7月と記憶しています。その当時はシリアのみならず中東全域が今よりももっと牧歌的で、私もリュックを背負って、ヨルダンから陸路でシリアに入り、ダマスカスから途中パルミラ等に立ち寄って、アレppoに、そしてトルコに抜けるということをしました（今では絶対に無理ですね）。バスから眺めた広大な地平線とダマスカスの街並み、アレppoの賑わい、パルミラの落ち着いた美しさは忘れられない思い出ですが、今はそういった景色が見られないという事実が心が痛みます。そして、前回のヨルダン事務所派遣時（2005年7月～2008年2月）にも一度ワークショップ開催のためダマスカスに出かけました。それがシリアを訪問した最後となってしまったのは悲しい

限りです。

シリア事務所長として着任する前は、約4年間中東・欧州部にいたこともあり、シリアを中心とした中東地域の大きなうねりについて触れることができました。この4年間だけでも本当に多くの事が起こり、10年前には予想もつかないような地政学のダイナミズムに巻き込まれていると感じます。JICAのシリア支援も様々な取り組みを行っておりますが、常にこのような動きを注視し、しっかりと情報を収集し、分析しながら最適な方策を考えていく必要があると感じています。安全管理上慎重な対応が必要と肝に銘じていますが、一方で、何事も前向きに、ポジティブに捉える性格でもあり、うまくバランスをとっていきたいと思います。引き続き皆様のご支援をお願いいたします。

（シリア事務所長 宮原 千絵）

●事業報告

シリア帰国研修員同窓会 2018年度活動報告

Since its establishment, JICA Alumni association brought together all ex-participants living in Syria and strengthened friendly ties and cooperation between Syria and Japan. The association is a group of professionals trained in Japan and can contribute to the development of Syria and of the region by sharing their expertise, experience and ideas in their respective fields. As such, alumni members have always been keen to share the knowledge they gained in Japan in their professional lives.

Despite the challenging circumstances the country has been undergoing for the past eight

years, and that JICA could not perform its activities as it was, the JICA Alumni Association in Syria (JAAS) has been maintaining the network of the members and has been playing a key role in representing Japan inside Syria.

Thus, JAAS has worked on regulating its annual activity plan in order to be in line with the circumstances on ground.

In this regard, the alumni worked on supporting the Syrian local communities who were affected due to the continuous war by providing different kinds of assistances in different fields.

According to its 2018 activity plan, JAAS considered the dif-



Training session on utilization of safety tools at an Electricity Departments

ficult conditions facing the electricity workers while they meet the continuous emergency calls for repairing the electricity damages and faults.

Thus, in cooperation with an Electricity Department in Rural Damascus, JAAS provided a “Forklift” to help the workers at the Department carrying electricity cables, aluminum rollers; generator’s, oil barrels, and distribution boards, which are of very heavy weight, and cause a lot of suffering to the workers.

Following the provision of the equipment, a training session was implemented by JAAS Chairman to aware the workers about the necessity of utilizing safety tools and equipment while meeting the urgent demands of electricity repair and maintenance.

JAAS cooperation, has also focused on the agricultural sector, where JAAS provided the



Wood Chippers provided to NATC and agriculture school

National Agricultural Training Center (NATC) and the Agriculture School with “Wood Chippers” that will be used for:

1 – Transforming the remnants of the trimming of the fruit trees process into a form, which can benefit in the manufacturing

of:

- Compost - organic fertilizer after fermentation - Silage - Green food for animals - Fermented feed prepared using soft and dry leaves

2- Recycling all the residues of agriculture in the center to benefit from as mentioned above.

3- Training on the use of trimming residues in improving soil characteristics.

4- Switch to organic farming using organic products and provide training on it.

JAAS activities were so much appreciated by the recipient organizations and proofed to be an example of exchanging experiences and knowledge and sharing information.

(Marah Morad, Senior Program Officer)

●事業報告

レバノン帰国研修員同窓会 絵画コンテスト

Japan From Lebanese Eyes V

レバノンのJICA研修員同窓会 (Leba-JICA) が毎年開催する絵画コンテストが、今年もJapan From Lebanese Eyes Vとして、山岳レバノン県のRaouf Abi Ghanem パブリック・スクールで、2月15日(金)に行われました。同校は、ベイルートから車で1時間ほどかかる山間部の町にあります。

イベントの当日、120人の在籍学生の中から30名の小学生と中学生が選ばれ、レバノンの民族舞踊、日本の童謡をベースにした舞踊、日本文化について事前学習の発表が行われました。その



表彰式の様子

後、絵画コンテストの受賞作品を先生方と学校支援グループの代表者と一緒に選考を行いました。学生の作品は、桜や寺、日の丸といったまさに日本に深く関連がある題材も多く(中には招き猫までありました！)、色彩豊かな作品に仕上げられていました。この絵画コンテストの実施のため、Leba-JICAは、学生が使用する画材等を提供しました。

全校をあげて行事に取り組んでくれた同校ですが、生徒数の減少や学校予算の制限という状況を抱えており、閉校の可能性も出ています。これを何とか打

開しようとする校長先生と教員の意気込み、学校支援グループが真剣に学校を支えている姿が見られました。シリア事務所から参加したスタッフは皆、同校の関係者の姿勢に感銘を受けました。Leba-JICAが企画したイベントを通じ、参加した小学生、中学生が日本に強い関心を持ってくれたことと思います。企画、実施に携われた皆様、大変お疲れさまでした。

(企画調査員 高島 淳)



主催であるLeba-JICAのメンバーと保護者の方々

本絵画コンテストの作品は、本ニューズレター最終頁に掲載しています。



日本の音楽に合わせて踊りを披露する子どもたち

アハラン・ワ・サハラン！ようこそ！

企画調査員（企画）
氏名：高島 淳

2019年2月にアンマンに着任、今回、中東地域に初めて滞在することになりました。仕事では、主にレバノン国内で支援を必要としている人々を対象としつつ、レバノンが抱える社会的課題への一助となる事業をJICA内外の関係者と検討し実施していきます。

この2か月ほどの間に、異文化理解のイベントを実施したレバノンの小学校の関係者、JICA研修生同窓会の会員と会うことができ、これらの方々からJICAに対する期待は大変大きいことを認識しました。レバノンで、多くの人々の笑顔につながる支援が形成できるように粘り強く業務にあたってまいります。皆様、どうぞよろしくお願いいたします。

絵画コンテスト作品紹介

レバノン帰国研修員同窓会主催・絵画コンテスト“Japan From Lebanese Eyes V”より作品の一部をご紹介します。（記事は3頁参照）



ホームページ
www.jica.go.jp/syria/index.html

お問い合わせ先 (E-mail)
sr_oso_rep@jica.go.jp

お知らせ

アハバール・カシオンのバックナンバーは左記JICAホームページより閲覧いただけます。次号の発行は2019年7月の予定です。寄稿やお問い合わせはメールにて受け付けております。

編集後記

この冬はシリア・ヨルダンとも雨が多く、3月になっても寒さが続いていましたが、後半からようやく暖かくなってきました。例年よりダムの貯水率が高く、夏の水不足の心配は少ない見込みだそうです。本誌では今後もみなさんからの原稿・写真等を募集しております。(H.N.)